

世界を変える人材育成入試 ～ロジカル・フラワー・チャート入試～

日本語
基準

優秀者
奨学金

併願
可

詳しくは、入学試験要項で
確認してください。

※海外で就学された方も受験可

趣 旨

自分なりの「問い」を立て、自分なりの「方法」で、自分なりの「答え（最適解）」を見つける力（探究型の資質や能力）を評価します。入学後の学修について自分なりの目標を掲げ、より良い世界の実現に向かって他者とともに取り組むことのできるみなさんの入学を期待しています。

選考方法

■ 第1次選考

出願書類による審査 +

筆記試験

与えられた資料から、自分なりの「問い」を立て、自分なりの答え（仮説）を設定した上で、設問に解答（試験時間120分）

第1次選考
合格者

■ 第2次（最終）選考

個人面接（約20分）
（口頭試問を含む）

❗ 選考・評価のポイント

（出願書類）

- 志望学部への興味・関心
- 入学後の学修等に対する意欲・熱意、記述の論理性や説得力

（筆記試験）

- 着眼点や読解力、発想力、論理性などを踏まえた探究的な物の見方や考え方の基礎的素養 など

❗ 選考・評価のポイント

- 出願書類と筆記試験の解答内容に基づく質疑応答
- APUの多文化教育・生活環境やリソースを積極的に活用し、学び成長することができるかや、探究的な物の見方や考え方 など

出願期間 試験日 試験地 合格発表日

募集区分	出願期間 (最終日消印有効)	第1次選考			第2次（最終）選考		合格発表日
		試験日	試験地	結果通知日	試験日*	試験地	
第1回	2021年 9月1日(水)～ 9月14日(火)	10月3日(日)	オンライン	10月15日(金)	10月23日(土) または 10月24日(日)	オンライン	11月2日(火)
第2回	2021年 10月27日(水)～ 11月9日(火)	11月28日(日)	オンライン	12月10日(金)	12月18日(土) または 12月19日(日)	オンライン	2022年 1月11日(火)

* 第2次（最終）選考の試験日は、本学が指定します。

※募集区分が異なれば、複数回受験することができます。

※出願資格を満たす他の入試方式と併願できます（同日実施の方式でも併願できます）。

出願資格

※詳しくは、
入学試験要項で
確認してください。

次の(1)(2)の両方に該当する者。

- (1) 出願学部に対する関心と学修意欲を十分に備えた者。
- (2) 高等学校（中等教育学校を含む）を卒業または2022年3月31日までに卒業見込みの者等、大学入学資格を有する者。

APハウス(国際教育寮)について

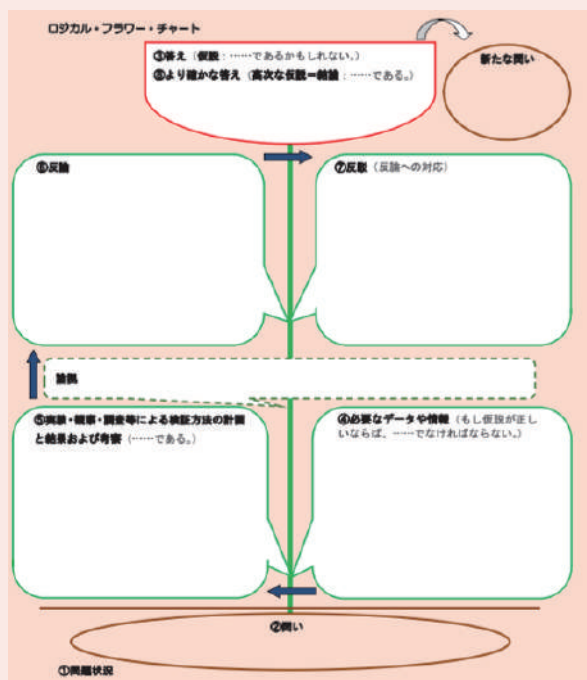
世界を変える人材育成入試～ロジカル・フラワー・チャート入試～の合格者は、APハウス選考において優先的に入寮を許可します。

ロジカル・フラワー・チャートとは？

考えるべき問題を見つけ、その問題がなぜ起きているのか（どうすれば解決できるのか）について仮説を立て、その仮説が正しいかどうか、誰もが理解できるような方法で論証・検証し、結論を導くという探求的なプロセスをモデル化したものです。

そのプロセスを図式化すると、下の図のような花の形になるため、「ロジカル・フラワー・チャート」と呼ばれます。

ロジカル・フラワー・チャートに関する詳細な説明はこちら



この方式の対策は？

● 本学では、大学受験時点でロジカル・フラワー・チャートの全てを完全な形で作成できるところまでは求めていません。ロジカル・フラワー・チャートを活用して探求的な学びの基礎を身につけていれば、大学入学後の学びの質が高まることを期待しています。したがって、受験生サイトAPUmatelに記載している「解答のポイント」を参考にして、

まずは

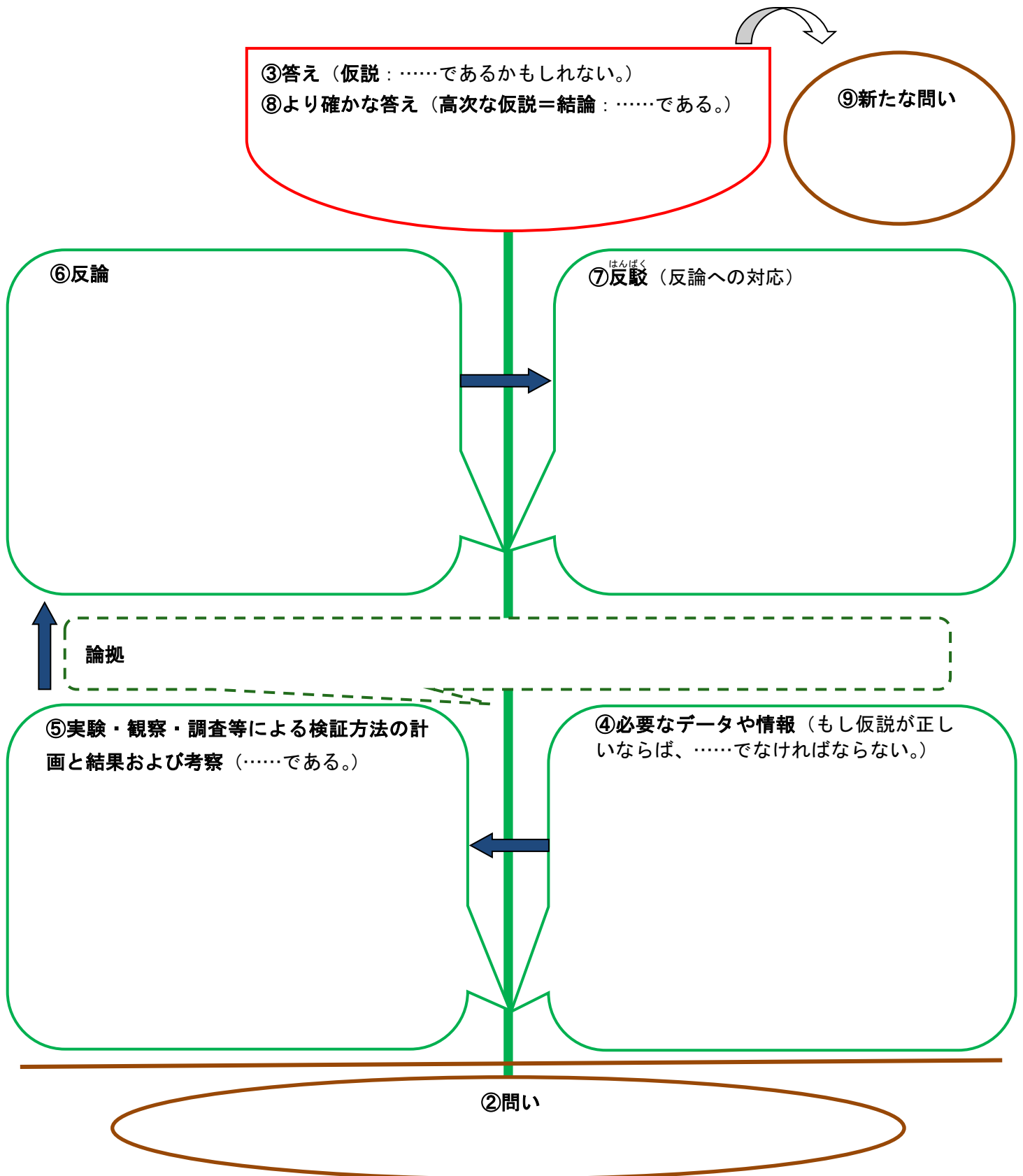
- ① 社会的に価値のある「問い」を立てること
- ② その「問い」に対応した仮説を筋道立てて説明できる練習をすることが必要です。

また、普段から身の周りの出来事に関心を持ち、「Why」をキーワードに「問い」を立てる練習を心掛けましょう。



解答のポイントの詳細はこちら

探究のためのロジカル・フラワー・チャート（Fチャート）



①問題状況（探究の出発点）

（考案：立命館大学教育開発推進機構教授

立命館アジア太平洋大学アドミッションズ・シニアフェロー 薄井道正）

Fチャートによる探究のみちすじ

Fチャートとは、〈考えるべき問題を見つけ、その問題がなぜ起きているのか（どうすれば解決できるのか）〉について仮説を立て、その仮説が正しいかどうか、誰もが理解できるような方法で論証・検証し、結論を導く〉という、言い換えれば〈自分なりの問いを立て、自分なりの方法で、自分なりの答えにたどり着く〉という探究的な思考のプロセスをモデル化したものです。探究のツールとして、表現（レポート作成やプレゼンテーション）のツールとして活用することができるものです。

①問題状況（探究の出発点）

日常のできごとや風景を「あたりまえ」のこととして見過ごさず、ちょっとした驚きや違和感にこだわって、新たな発見や解決につながる問題状況として捉える

②問い

じっくり観察し、仮説の形成と検証が可能な「問い」を立てる

④必要なデータや情報（もし仮説が正しいならば、……でなければならない。）

もし仮説が正しいならばどのような事実が成立しなければならないかを演繹的に推論する。仮説を検証するための方法を明確にするためのステップである

⑤実験・観察・調査等による検証方法の計画と結果および考察（……である。）

仮説や推論によって方向づけられた実験や観察、調査等をもとに仮説を検証する方法を計画し、実行する（問題解決のためのアイデアを支持する証拠やデータを集めて分析する）

論拠

根拠と仮説のつながりを担保する仮定（暗黙の了解）であり、ふつうは明示しない（されない）が、仮説に同意する（される）かどうかの鍵となる

⑥反論

反証例や異なる視点・観点からの批判を想定する

⑦反駁（反論への対応）

反論に対して仮説を防衛し、より高次の仮説に書き換えるためのステップである

③答え（仮説）、⑧より確かな答え（高次の仮説＝結論）

問題を解決するための仮説（新たなアイデア）を提示する

⑨新たな問い（課題）

答えから新たな問い（課題）を見つける（すぐれた答えは必ず新たな問いを生む）

5. 設問1～4で作成した「問い」、「問い」の価値、自分なりの答え（仮説）、必要な情報や調査等を踏まえ、論文を作成するとした場合の計画書（論文・レポートで序論にあたる文章）を作成しなさい。＜400字～800字以内＞

まずは、「序論」の書き方について調べてみてください。
その上で、これまで考えてきた設問1～4の内容を踏まえて、記述することが重要です。
また、相手にわかりやすく伝わるように、文章を構造化して論理的に記述することが重要です。

(200字)

この様に、「問い」を洗練化したり、答えを検証するための方法を学んだりすることは、大学入試だけではなく、社会に出てからもきつと役に立ちます。

なお、設問5までの答えを踏まえて、実際に検証するための、より高度で専門的な知識や技能は、大学で十分に学ぶことができます。だからこそ、設問5までに答えられる力（探究的な学びにとって最も重要な力）を高校までの学びの中でしっかりと身につけてください。

(400字)

(600字)

(800字)